

平成28年度「キャリア教育・就労支援等の充実事業」成果報告書

受託団体名	鳥取県教育委員会
-------	----------

I 概要

1 モデル地域の概要

①モデル地域の種類 ※I型、II型、III型のいずれかに○を付してください。

	I型（連携型：特別支援学校高等部及び高等学校の連携）
○	II型（単独型：特別支援学校高等部のみ）
	III型（単独型：高等学校のみ）

②モデル校の一覧

設置者	学校種	課程又は障害種	学校名（ふりがなを付すこと）
鳥取県教育委員会	特別支援学校	知的	鳥取県立琴の浦高等特別支援学校

2 研究課題

生徒の就労を促進するため、教育内容・方法の検討と小規模県である本県の実態に応じた就労支援ネットワークの在り方について検討する。

3 研究の概要

県立琴の浦高等特別支援学校（以下、モデル校）を中心に以下のような研究を進める。

- (1) モデル校と地域との協働や様々な人材の活用等を行い、生徒の変容を通して、生徒が自らの将来について考え、主体的に学んだり、働こうとしたりする学習の在り方について検討する。
- (2) 就労サポーターの活用や関係機関、地域等とのネットワーク構築を通して、生徒のニーズに応じた就労先、実習先の開拓を行うとともに、生徒が働き続けるための就労支援体制について検討する。
- (3) モデル校の取組についてキャリア教育推進協議会等を通して、県内特別支援学校に発信し、鳥取県全体での児童生徒の就労支援や各校のキャリア発達を促す指導・支援の充実を図る。

4 研究の成果

- (1) モデル校においては、地域での協働や様々な人々との出会いをとおして、生徒が他者に認められる機会や達成感を感じられる場面が増え、自己有用感が高まった。さらに、仕事へのやりがいや責任感を持って働く姿も増加し、働く意欲の向上へとつながったと考えられる。生徒へのアンケートでは、90%の生徒が「産業現場等における実習は自分のためになる」と回答するなど、日々の学習に取り組む意義についての理解も深まった。
- (2) 地域や関係機関とのネットワーク作り、就労サポーターの活用を通して、新規の実習先を11カ所開拓することができた。平成28年度卒業生は卒業生35名に対して企業就職者数は30名であ

り、企業就職率は85.7%であった。

(3) モデル校を含めた県内各特別支援学校の学部主事が集まって、各校キャリア教育の取組について情報交換や協議を行ったこと、また、アドバイザーから講義や助言を受けたことを通して、各特別支援学校のキャリア教育の取組が整理され、キャリア教育の取組の推進へとつながった。

5 課題と今後の方策

小規模県である本県においては、就労への取組と同様に定着への取組が必要である。そのためには下記のような取組が必要と考えている。

(1) モデル校においては「琴の浦教育検証プロジェクト」として、琴の浦高等特別支援学校第1期生の卒業生の卒業後の状況について、卒業生、就労先、保護者へのアンケートや聞き取り等を通して、これまでの教育内容についての評価と改善・充実を目指している。モデル校の取組をはじめ、このような取組について、機会を捉えて県内に広げ、各特別支援学校の指導・支援の充実につなげたい。

(2) 卒業後のサポート体制の充実については、鳥取県として独自に「定着支援コーディネーター」を配置し、運用を進めている所である。「定着支援コーディネーター」は、高等部在学中から卒業後約1年間にわたって、生徒をサポートしており、具体的には、生徒の実態把握し、卒業後の状況に応じた直接的なサポートや企業内にサポーターを増やすための働きかけ、関係機関等とのスムーズな移行体制の構築を担っている。

以上のような取組を通して、在学中の指導支援の充実、卒業後のサポート体制の構築を図り、今後も鳥取県の特別支援学校児童生徒の自立と社会参加をより一層進めていきたいと考えている。